

しずおかユニバーサルデザインの推進 ～だれもが暮らしやすい社会づくり～

静岡県県民部ユニバーサルデザイン企画監付主幹 伊藤和人

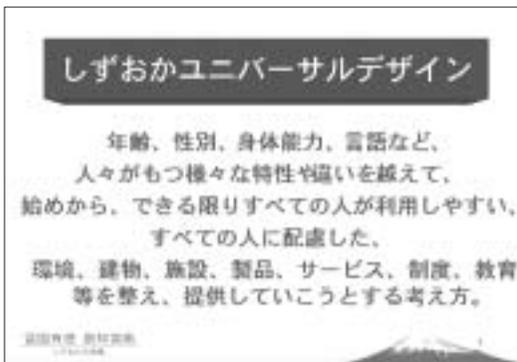
1. しずおかユニバーサルデザイン

近年の少子高齢化の進展などに伴い、高齢者や子ども連れの人、障害のある人、外国人など、だれもが暮らしやすい社会づくりの重要性は、ますます高まっています。

そうした社会づくりへの取り組みのひとつとして、ユニバーサルデザインの推進があります。

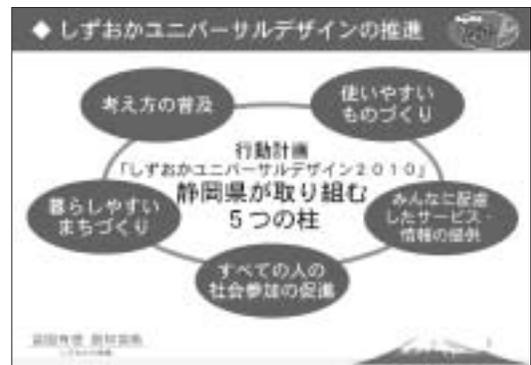
「すべての人のためのデザイン（構想、計画、設計）」であるユニバーサルデザインは、高齢者や障害のある人に優しい社会づくりをはじめ、子育てしやすい環境整備、外国人との共生への取り組みといった各施策を進める上で大変重要な考え方となりますので、静岡県では、平成11年に国内の行政機関の中でいち早く行政運営の主要方針に位置付け、「しずおかユニバーサルデザイン」として県の全組織を挙げて推進しています。

「しずおかユニバーサルデザイン」は、すべての人が暮らしやすいように、「まち、もの、環境」づくりを行っていかうという考え方であり、行政、事業者、県民が共通の考え方に立って行動するための基準のひとつと位置付けています。



現在、実践のための行動計画として「しずおかユニバーサルデザイン2010」を策定し、「ユニバーサルデザインの考え方の普及」「すべての人が暮らしやすいまちづくり」「すべての人が使いやすいもの

づくり」「すべての人に配慮したサービス・情報の提供」「自立と共生の社会づくり」を柱に、すべての人が自由に活動し、いきいきと生活できる魅力ある「しずおか」の実現に向け、具体的な取り組みを展開しています。



2. 静岡県における実践事例

(1) ユニバーサルデザインの考え方の普及

市町村職員や事業者、小中学生を対象とした講座を開催するとともに、建築物、印刷物、イベントなどさまざまな分野においてユニバーサルデザインを取り入れる際の参考となるよう、各種ガイドラインやマニュアルを作成しています。

最近では、小中学校の教科書にユニバーサルデザインが掲載されるなど学校教育にも浸透しており、教師用マニュアルのインターネットでの公開や、NPO等との連携による体験教室なども実施しています。

平成12年4月に、静岡県と地元産業界が協力し





て設立した静岡文化芸術大学では、新しい時代の要請に応えられる創造性と実践力を持った人材の育成をめざす教育機関として、ユニバーサルデザインを教育理念の一つに掲げるとともに、音声で誘導する案内サインや段差を解消するスロープの設置など、ユニバーサルデザインに配慮した教育環境を提供しています。また、県と大学の協働によるシンポジウムの開催なども行っています。



(2) すべての人に配慮したサービス・情報の提供

まず身近な県の封筒を改善しました。封筒に印刷する「静岡県」の文字を白抜きにして見やすくしたほか、県章部分の浮き出し処理や糊付け部分を波型にカットし、視覚に障害のある人だけでなく、高齢者や外国人などにも県からの封筒であることがはっきりと分かるようにしました。また、県の印刷物に音声コードを付与し、付与された音声コードを読取装置で音声に変換することにより、視覚に障害のある人にも分かるように配慮しました。



(3) すべての人が暮らしやすいまちづくり

歩道や公共施設の整備に際してユニバーサルデザインを導入しています。子ども連れの人や高齢者、車椅子利用者、目の不自由な人など、さまざまな人のニーズに対応した歩きやすい歩道整備を行っています。整備の過程では実物大の模型による検証により、車椅子利用者が振動を気にせずに行けるようタイルのつなぎ目を工夫したほか、雨の日でも歩きやすいように雨水透過性タイルを使用しました。



また、公共トイレについては、障害のある人や子育て中の人のニーズに応えるため、車椅子利用者に配慮したスペースの確保やオストメイト用洗浄機、手すり等の設置、男女双方に子ども用便器やオムツ替えができるベッドを備えたブースの整備を進めています。



一方、県立総合病院では、度重なる増築により当初のサインシステムが機能しなくなったため、ユニバーサルデザインの視点から改善を行いました。五感に訴えるサインをめざし、目の不自由な人には靴底から伝わる感覚で通路の交差点が分かるように床材を工夫しました。外国人にも診療科の位置が分かるよう、すべての診療科に番号を付けるとともに、高齢者にも見やすいように、明るく、大きな文字表示を行いました。



(4) すべての人が使いやすいものづくり

家具メーカーとの共同研究により、和室用テーブルセットを製品化しました。通常、和室では畳に直接座りますが、高齢になると膝を曲げて座れなくなる人が多く、そのような人向けに座面が30センチメートルの高さで、畳を傷つけない椅子とテーブルを開発しました。また、この企業では、立ち上がる際の膝の負担を軽減するパワーアシスト付き椅子なども開発し、ユニバーサルデザイン家具の売上げを伸ばしています。



3. 民間企業における実践事例

静岡市内にあるスーパーマーケットでは、子どもから高齢者、障害のある人が楽しく買い物ができるよう、ユニバーサルデザインが取り入れられていま

す。具体的には、視覚障害者用の歩行誘導ブロック、子ども用の買い物籠、障害のある人や高齢者用の駐車スペース、広い店内の通路、ペットパーク、多目的トイレなどが整備されています。



JR静岡駅南口の前にあるシティホテルでは、ユニバーサルデザインに配慮したユニバーサルルームはもちろんのこと、それ以外の設備も機能的で、車椅子やベビーカーを利用する人、高齢者に使いやすくなっています。また、駅の南口から続くペデストリアンデッキ（高架の歩行者専用通路）を利用し、安全でスムーズにホテルまで行くことができます。

ホテル内のユニバーサルルームには、段差のない広めのバスルームがあります。浴槽は手すり付きで、腰掛けるスペースがあります。

ユニバーサルルーム以外の客室もバスルームに段差がないため、車椅子利用者や高齢者、子どもに使いやすくなっています。



静岡市内にあるタクシー会社では、ワンボックスタイプのユニバーサルキャブ（ユニキャブ）を導入しています。福祉専用車ではなく、一般タクシーに車椅子を搭乗することで運賃も通常並にし、あらゆる場面で利用できます。車椅子利用のときは5人乗り、一般利用のときは7人乗りとなり、車椅子スペースを共用することで多くの人が快適に利用でき

ます。ヘルパー資格乗務員が在籍しており、訪問介護事業、障害者支援事業も併設しています。



4. 静岡県の取り組みを世界に

静岡県がユニバーサルデザインに取り組み始めて今年で10年目となりますが、この間、考え方の普及をはじめ、ハード・ソフトの両面にわたり、さまざまな取り組みを行ってきました。こうした成果として、ユニバーサルデザインの県民の認知度は当初の31%から70%に、事業者の取り組み率は25%から38%に上昇するなど、着実に進展しています。

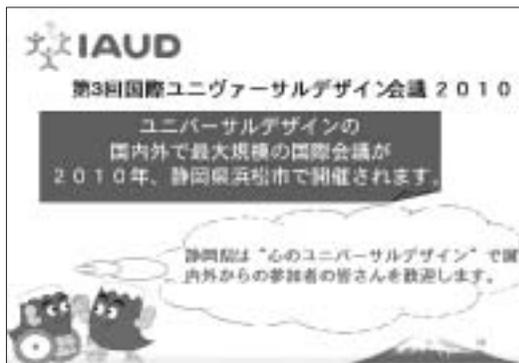
このような静岡県の取り組みは、海外からも注目され、韓国、台湾などアジア諸国からの視察も多く受け入れています。昨年9月には、カナダのモントリオール市で開催されました第9回世界高齢者団体連盟世界会議に、日本の行政機関から唯一、本県の石川知事が招聘され、「ユニバーサルデザインで、だれもが暮らしやすい社会づくり」と題して、これまでの取り組み状況等について講演を行いました。講演終了後には、参加者から高い評価と賛辞が寄せられ、21世紀には高齢者問題が大きなテーマにな



(講演する石川嘉延・静岡県知事)

るとの認識のもとに、高齢化の最先進国である日本の対応に注目が集まっていることを感じました。

また、平成22年秋には世界で唯一のユニバーサルデザインの国際会議である「第3回国際ユニバーサルデザイン会議」が本県で開催されることが決まりました。この会議は、4年に一度開催されるもので、ユニバーサルデザインの世界的に著名な研究者等が一堂に会し、まちづくりや医療・福祉などさまざまな分野の講演や論文発表を行うとともに、ユニバーサルデザインを取り入れた新製品や最先端技術の展示等が行われます。



静岡県では、この国際会議の開催を通じて、県民や企業が世界各国の最新で最高水準のユニバーサルデザインに触れることにより、本県のユニバーサルデザインがますます飛躍する契機となるよう、取り組んでいきたいと考えています。

<参考>

ユニバーサルデザイン 教員研修用テキストは、以下のアドレスからダウンロードできます。

www.pref.shizuoka.jp/ud/datas/textbook/0307textbook.html

